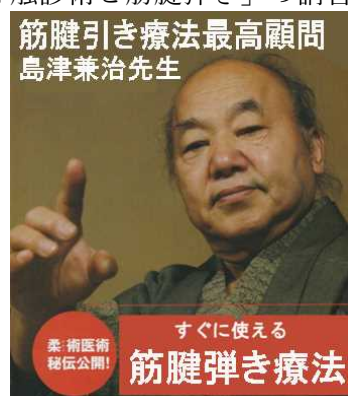


「腱引き・腱引き療法」の言葉を商標登録者から使用しないようにとの依頼があったので、日本タイマッサージ協会では、これからそれらの言葉を「筋腱弾き」に変更いたします。そして、どの筋肉と腱を弾いているかの触診術を合わせて、「触診術と筋腱弾き」の講習を新たに開始します。

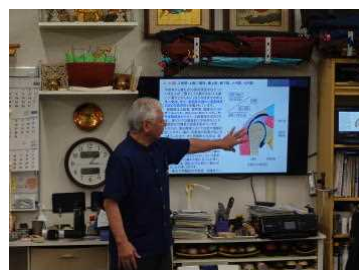
筋腱弾き療法は、400年の歴史がある柳生心眼流に伝わる治療法で、柳生心眼流は、1640年頃から東北地方に伝わっていた日本の古武道です。仙台藩の武士、竹永隼人兼次が奥義を極めた後、将軍家武道指南役、柳生但馬守宗矩に仕え、柳生心眼流の名を名乗ることを許可されました。

その柳生心眼流は、島津兼治先生に受け継がれ、技術は全て大槻一博が引き継いでいます。

今回は、触診術をまず学び、それぞれの痛みの原因となっている箇所を正確に突きとめ、そこに関係する筋や腱を弾いて、痛みや不快感を改善する施術法を全3回で学びます。全3回の講座修了者には、[島津健康塾と日本タイマッサージ協会から修了書](#)が発行されます。担当講師：大槻一博



触診術では、筋肉の起始部と停止部を正確に把握し、その動きも含めて学びます。その上で、どの筋肉や腱を弾くのかの練習をして、痛みや違和感を早めに改善していきます。タイマッサージや通常のマッサージ・整体をお仕事にされている方にとって、自分の行っている手技が正確にどこを狙って行っているかを認識することは、非常に大切なことです。もともこの筋腱弾きは東北に伝わる古流武術「柳生心眼流」に伝わる伝統的な療法で、その治療家は、痛みがすぐに引いてしまうので、一カ所に止まらずに治療場所を転々と移動していたとの記録があります。講座では、最初に実際の体を使って触診術を学びます。施術には痛みが伴う場合がありますが、その後の爽快感は他の施術では味わえません。



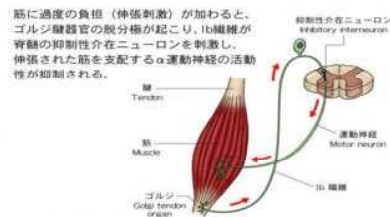
講座参加者の感想です。

- ①非常に痛くて泣かされそうになりました。
- ②3回通わせていただいて、通う度に タイマッサージを教える時に理論や技術に応用ができました。
- ③私はこの講座をプライベートで受講し、今日は復習で来たのですが、お客さんの満足度が上がっているのが実感できます。
- ④すごい痛いんですけど、終わった後、その部分の痛みがなくなるので施術に活かして行きたいです。
- ⑤痛いんですけど、ただ痛いのではなく終わった後、血行が良くなりスッキリ感がありました。
- ⑥効果の即効性があるのと、ほぐれるまでの時間が短いので、短い施術時間の中で満足度を出せるようになりました。手技を教える時にも、イメージを伝えやすくなりました。

- ⑦細かい筋肉を覚えるのは大変だったが、お客様の痛みを原因別に癒やしてあげられるのが良かった。
- ⑧今までは、多分ここだろうと思っていた場所が自信を持って捉えられるようになった。押ししたり伸ばしたり以外のバリエーションが増えた。
- ⑨腕をやってもらったのに、目や頭の方までスッキリした。指も治療家の指になってきました。
- ⑩終わった後の爽快感があった。お客様もすぐに確認ができるので、喜びを届けられます。
- ⑪わざと首を凝らしてきたが、今までで一番良いです。痛みの後に来るスッキリ感が良かった。

第1回目（9月14日）：

この回では、短指屈筋、短母指屈筋、母指外転筋、長腓骨筋、長母指屈筋、後脛骨筋、ヒラメ筋、腓腹筋、長母指伸筋、前脛骨筋、大内転筋、短内転筋、長内転筋、半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋、大腿四頭筋、縫工筋、梨状筋、大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、腸腰筋への筋腱弾きを練習し、外反母趾、足首の捻挫、扁平足、足底腱膜炎、シンスプリント、膝関節痛、股関節痛に対しての手技を学びます。



腱が強く引られる感覚をゴルジ腱器官が察知し、1b線維を通して中枢に伝達。この情報伝達により、α運動ニューロンを抑制し、主動筋（動かそうとする筋肉）が弛緩します。同時に、主動筋と反対の動きをする拮抗筋が緊張します。筋肉の損傷を防ぐこの反応を、ゴルジ腱反射（1b抑制・自己抑制）といいます。

第2回目（11月9日）：

この回では、脊柱起立筋（最長筋、腸肋筋、多裂筋）、大小菱形筋、広背筋、僧帽筋、肩甲挙筋、大胸筋、小胸筋、腹直筋、内外複斜筋への筋腱引きを練習し、腰痛、肩こり、背部痛、ぎっくり腰、ぎっくり背中、猫背、内臓機能低下の対処法を学びます。

各症状に關係する骨格・筋肉（2回目）



- ①第4腰椎棘突起がヤコビー線（腸骨棘をまいた線）に当たる。
- ②腸骨棘を内側に下がってくると、最初に当たる骨棘がPSISになる。
- ③山崎の正中の隆起は、正中山崎線という。
- ④そこを下がっていくと、尾骨を触れる。
- ⑤尾骨の外側には、坐骨結節があり、その外側には、大転子がある。
- ⑥坐骨神経は、大転子と坐骨結節の間、坐骨結節から2/3の所にある。

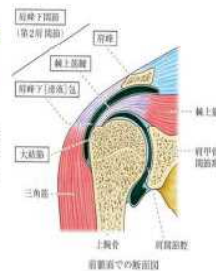
大坐骨孔は、梨状筋が通ることによって、梨状路上孔と梨状筋下孔に分かれ、前者を上股動静脈・神経が通り、後者を坐骨神経のほかに下股動静脈・神経、内臓動静脈、陰部神経、後大腿皮神経が通る。

第3回目（1月11日）：

この回では、胸鎖乳突筋、斜角筋、後頭下筋群、三角筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、橈側・尺側手根屈筋群、総指屈筋、長掌筋、骨間筋、虫様筋、表情筋、咀嚼筋への筋腱引きを練習し、顎関節症、手根管症候群、肘部管症候群、手の痺れ、麻痺、パソコン仕事の疲れ、テニス肘、ゴルフ肘、50肩、胸郭出口症候群、目の疲れ、顎のズレ、頭痛の対処法を学びます。

3. 50肩：三角筋・上腕二頭筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋

中高年から増える50肩の原因はわかっていませんが、「動かしても動かさなくても痛い」「肩が上がらない」などの症状で中年以降に発症します。肩関節の痛みと運動障害を認める疾患と定義されています。肩関節は上腕骨、肩甲骨、鎖骨の3つの骨で支えられ、肩を大きく動かすために肩甲骨関節窩が小さく、上腕骨頭のはまりが深く、骨だけでは構造的に不安定なところを関節唇や腱盤が強度を高めています。そのため、肩の酷使によって炎症や損傷が起こりやすく、痛み・可動域の制限が起こると考えられます。また肩関節の炎症は、肩峰下の滑液包や関節周囲の筋肉に広がる場合があります。特に、痛みが長引くときは**腱板断裂**を疑います。50肩では腕を上げる途中に痛みがなく「これ以上は上がらない」という動きの最後の時点で痛みが起こることが多く、腱板断裂では、腕を上げる途中で痛みが起こることが多いです。（東北大学整形外科教授 井植栄二）



日時：第1回目9月14日（水）、第2回目11月9日（水）、
第3回目令和5年1月11日（水）、午後1時～5時半（全回）
講習費：一回17,000円、3回分まとめると50,000円

触診術・実技講師：大槻一博

場所：日本タイマッサージ協会

申し込み対象者：セラピスト、医療従事者、学生

使用テキスト：筋と骨格の触診術の基本（株式会社 マイナビ）

必要な場合は、各自テキストを購入してください。

服装：動きやすい薄い布の服をご持参ください。（Gパン不可）

申し込み方法：氏名、住所、ご職業、連絡先電話番号、メールアドレスをメール（info@thaimassage.jp）で連絡してください。

講習費は、一回目だけなら1、二回目だけなら2、三回目だけなら3、三回とも全部なら1 2 3と氏名の後に付け加えて日本タイマッサージ協会までお振り込みください。

講習費：一回17、000円、三回全部50、000円

お振り込みが確認できた時点で、お申し込み完了となります。

定員20名に達した時点で募集を締め切らせていただきます。

振込先：三菱UFJ銀行 小山支店 普通0894728 日本タイマッサージ協会